

## サーチライト With Pastor Jon 創世記 3章 パート 4

このメッセージはアップルゲート クリスチャン フェローシップの、ジョン・コーソン牧師が公開したメッセージを、アメリカ在住の日本人クリスチャン木下言波が翻訳して YOUTUBE やブログに上げたものを文字化したものです。世界的なインターネット規制が始まろうとしています。私達はその日のために、文字にして紙に記録するのを感じました。また、インターネットに不慣れな方や字幕を追って読むのが困難な方のためにも必要があると主に迫られたと感じます。

※インターネットのメッセージを、文章化するこの働きを始めた姉妹が、現在目を患って治療中です。どうか、りよくさんの為にも、お祈りください。

「きょう、もし御声を聞くならば、あなたがたの心をかたくなにはならない。」ヘブル4:7

メッセージ by ジョン・コーソン牧師 アップルゲート クリスチャン フェローシップ

<http://joncourson.com/>

7590 Highway 238 Jacksonville, OR 97530

訳 by 木下言波 DivineUS : <https://www.youtube.com/user/TheDivineUs>

筆記 by Rumi

“Total Woman” (\*邦題 ; トータル・ウーマン 幸せな結婚を築く秘訣) という古い本。

この本はベストセラーで、1970年代、最高に売れたクリスチャンブックでした。

“トータル・ウーマン” 知らない人もいるかと思いますが、その当時は夫たちがみな、妻に贈ったものでしたよ。

著者マラベル・モーガン (Marabel Morgan) は本の中でこう言いました。

「妻はその身をラップで包んで夫を迎えなさい。」

夫は弁護士。彼らの結婚生活は寂しいもので、もがき苦しみ、破綻していました。

彼女はクリスチャンである自分がどのようにして結婚生活を取り戻したかについて、赤裸々に書いたのです。討論会、セミナー、授業、修養会…非常に大勢の人々がこの本を購入しました。夫を取り戻すためにクリスチャンの女性が行ったこと、「これが鍵よ！」と言ったラップ…

なぜこの話を持ち出したかという、マラベルは離婚したからです。

私は何も面白がって、バカにして言っているのではありません。ただ悲しいのです。

彼女は “Totaled (完全にボロボロの) Woman” になってしまったのですから。

なぜ彼女の結婚は完全に終わってしまったのでしょうか。

それは、しばらくはそれが効果的でも、結局は一時しのぎの解決法だからです。

皆さんに言っておきたいのですが、“男は火星から、女は金星からやって来た” は一時しのぎの間に合わせ。〈あなたは黄色タイプか、青か、赤か〉などの色分けや、〈楽天的か、情熱的か、冷静か〉などの問いも〈牡羊座、うお座、みずがめ座〉等々、そういうものは一時しのぎです。しばらくはそれで満足しても、次にまた何かが必要で、こういった類のものは次から次へと登場して、誰もがそれに飛びつくけれど5年もすれば廃れてしまう。

聖書はとてもシンプルです。みことばに留まっていましょう。それが正しいことです。

あっちのクリニック、こっちのセミナー、そっちの本などと走り回る必要はありません。

ただ聖書に書かれている通りにすればいいのです。

夫たち。キリストが教会を愛したように自分の妻を愛しなさい。

あなた自身を完全に妻に捧げなさい。死になさい。

あなたが外に出て、いばらの地を耕さなければならないのは分かっています。

それでも彼女に耳を傾けなさい。自分の傾向に死んで、彼女が言うことを聞きなさい。

妻を愛しなさい。ただシンプルに妻を愛して自分を殺す。

果たすべき仕事があるのは分かります。女性よりも男性と共に行動する方を好み、汗を流して生産したり作り出したりする時にどんなに幸せかも分かります。あなたが生活のためにやっていることは何でも、現実的なこととして分かります。全部分かりますよ！

それでも、あなたに必要なのは、妻の欲求を知ることなのです。あなたの性向は呪いの一部なのですから。

妻たち。あなたは夫に従いなさい。夫のそばに立ち、夫と共に立ち、夫のために立ちなさい。夫の上に立たないように…。そして、夫が言うことをやりなさい。従いなさい。

「イヤです。」「何と言われようと、それはできません。」「フェアじゃない。」「赦せないのよ！」「!!!!」

**主に従うように、自分の夫に従いなさい。(エペソ 5:22)**

主に従うのです。

これらを全部まとめるとこういうことです。

「夫よ、妻を愛しなさい。妻よ、夫に従いなさい。」シンプル過ぎて感動しますね。

そして期待度を最低限度に下げなさい。なぜなら、あなた方は呪われた状態なのだから。

そうしたらどうなりますか？妻への期待度が最低限度に低くなった時、私はようやく結婚生活を楽しむことができるのです。タミーも私への期待度をものすごく下げることによって、私との結婚を楽しめます。でも、彼女が余りにもたくさん本を読み、数々のセミナーに行ったなら、私への期待度は上がり、結果ガッカリすることになるでしょう。

イライラし始め、そしてどうなるかということ、人は周りを見回して「一緒にいるのはあの人がいいかも…」「彼女の方がいいな。」と言い始める。

神のやり方はびっくりするほど現実的です。人生には呪いがある。そして人生は短い。

しかし、時が来れば私たちは自由になり、全ては義となり、全ての涙は拭われます。

だから天の御国を第一に思い、期待度を下げ、呪いの力について知るので。

どうして彼女はそう感じ、どうして彼はそんな行動をとるのか。

その時、主は言います。「わたしの言う通りにしなさい。夫よ。自分を犠牲にして妻を愛しなさい。妻よ。夫のそばに立ちなさい。すぐそばに。」

そうすれば大丈夫。そうすればあなたは本当に大丈夫です。

**さて、人は、その妻の名をエバと呼んだ。**

**それは、彼女がすべて生きていた母であったからである。(創世記 3:20)**

最初にアダムが彼女を呼んだのは、2章にあるように『女』、ヘブル語で『イシャ』。

これは“男『イシュ』から取られた者”ということ。『女』これが最初の名前でした。今、アダムは彼女の名前を変えて『エバ』、ヘブル語で『カバ』と呼んでいます。これは“命を生み出す者”という意味です。

もうすぐ終わりますからよく聞いて下さい。

「彼女は私から出たから『女』、これが初めの名前。」私はターザン、あなたはジェーン…

ここでアダムは主のことばを聞きました。それで彼は何と言っていますか？

「彼女はもう“男から”ではなく、“男のため”でもない。これからその名前は『命を与える者』だ。」つまりアダムは何かを理解したのです。それは、命を与える救い主が、女から、女の種から産まれるということ。

私はとても驚きました。ここに暗示されていることはびっくり仰天することです。

アダムは彼女を見て、「女よ！お前は私から出たのだから、私のそばにいて言うことを聞け!!」とは言いません。彼女を通して自分の救い主が産まれてくる、ということが分かったのですから。それで彼女の名前を変えたのです。『エバ』『命を与える者』『生きている者』『カバ』。

実際、夫にとってこれは良い学びになります。これからはもう、妻を見て「女よ！私のそばにいて言うことを聞け!! 私の言う通りにしろ!!」と言う代わりに、「その時が来たなら、彼女の中に私の主が宿ってその命が現れる！」と言うでしょう。「彼女の中にイエス・キリストが生きている。」

誰もがそうであるように、妻にも欠点があります。それでも主は彼女の中において、御手をその上に置かれている。だから私は全身全霊で妻を尊重し、彼女との関係を大切にしなければなりません。

私はここに変化を見ました。

妻は『イシャ』『女』から『命を生み出す者』『生きているものの母』となった。

このことを理解した全ての男の意識の中にも変化が起こります。「妻はキリストの花嫁だ。キリストが彼女の中に存在し、キリストが彼女から溢れ出て、御手が彼女の上であり、彼女を大切にされている。だから私も妻を大切にしなければ。」

アダムは分かったのです。『原福音』。「私の救い主は、女を通して、女から出る。」

**神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作り、彼らに着せてくださった。**

**(創世記 3:21)**

日曜日にお話したように、確信はありませんが、恐らく、この時犠牲になったのは子羊でしょう。神はイガイガ、チクチクするいちじくの葉を取りのけて、子羊の皮で作ったもっと着心地の良い、より快適な衣を男と女に着せました。これは、あなたの裸、あなたの罪は自分で縫い合わせたいちじくの葉では覆えないこと、それは罪のない動物、子羊の命の犠牲によって覆われる、ということを行っています。

神の子羊とはイエス・キリスト。子羊！こひつじ!!

この創世記で男と女のために献げられた子羊。出エジプト記では家族のために。覚えていますか？過越祭の日に、それぞれの家庭で、家族で子羊が献げられましたね。

レビ記では民族のために。聖なる会合、ヨム・キプール（大贖罪日）では個々人のため、家族のため、民族のために。

ヨハネは言いました。「**見よ、世の罪を取り除く神の小羊**」(ヨハネ 1:29)

そうです。イエスは世の罪のために死なれました。また、タミーのためにも、私のためにも、一人ひとり、個々人のためにも。

私がタミーといえる時というのは、私は聖なる地にいるということです。なぜなら、私の妻タミーはキリストの花嫁になるために選ばれ、イエスが彼女をご自分の血で洗い、義の衣を着せて下さったから。

ところで、1974年ザイルでの“ランブル・イン・ザ・ジャングル”、モハメッド・アリが対ジョージ・フォアマン戦で着ていたガウンが、昨日14万ドル（約1400万円）で売れました。（\*1997年）ガウン（衣）…。綿のタオル地のガウン。「アリが着ていたガウンだ！欲しい！」ジョージ・フォアマンと闘う前にアリがほんの少し着ただけで14万ドル!! 私がガウンを持っていたら、その半額で売るでしょうね。

とにかく、私たちが妻を見ると、彼女は神の義の衣を着せられており、そして妻が私たちを見ると、夫も同じようになっていることが分かる。私たちは二人とも衣を着せられているのです。

さて、アダムは天国にいるのでしょうか？私は、いると信じています。20節と21節に書かれている二つの出来事が、アダムが理解していたことを証明しているから。「エバから『命』『命を与える者』『救い主』が出る。その方は、私の

裸を覆うために動物の犠牲に置き換わって死ぬことを受け入れて下さった。これらのことが信仰によってなされた。」と。だから、天国でアダムとエバに絶対会えると固く信じています。ということで、二人は覆われました。

**神である主は仰せられた。「見よ。人はわれわれのひとりのようになり、善悪を知るようになった。」(創世記 3:22)**

二人はもう我々のようになって離れてしまった。

**「今、彼が、手を伸ばし、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きないように。」**

**(創世記 3:22)**

**そこで神である主は、人をエデンの園から追い出されたので、人は自分がそこから取り出された土を耕すようになった。(創世記 3:23)**

彼らは、もうエデンの園にいられなくなってしまいました。それは、アダムが園にあるもう一つの木、いのちの木に近づかないようにするためです。もし、いのちの木から食べたなら、墮落した状態で永遠に生きてしまうから。

どんどん、どんどん、どんどん年を取っていき、10000 歳、20000 歳、30000 歳…永遠に生き続け、体はどんどん衰えていく。30000 歳になった自分を想像できますか？今の調子で老化が進んでいくんですよ。悲惨です。

それで神は、「アダムがその木から食べて永遠に生きるといけないから、園にいることはできない」と言いました。これは、神の憐みなのです。

**こうして、神は人を追放して (創世記 3:24)**

これは神の意地悪ではありません。と言っても、神がリモコンを使ってアダムを動かしたワケじゃないですよ。それだとクールなんです。

**神は人を追放して、いのちの木への道を守るために、エデンの園の東に、ケルビムと輪を描いて回る炎の剣を置かれた。(創世記 3:24)**

遂に 3 章も終わりに来ました。

ここに出て来る“ケルビム”。これは複数形で明らかに数字の“2”を表しています。

二つのケルビム。ちょっと待って。他にケルビムが出てくる箇所は？契約の箱の上に乗せる“贖いの蓋”(出エジプト記 25:18-22) ですね。

それに、“輪を描いて回る炎の剣”。それで、突然私に見えてきたこと、ここで表されているもの、それは“幕屋”アダムとエバの裸、彼らの汚点を覆うために与えられた皮、その犠牲はここで献げられました。動物が屠られる祭壇があり、血が振りかけられた贖いの蓋には二つのケルビム、光と炎の明かりはシャカイナ・グローリー。どうですか？実はこれは幕屋ではなく、ここ重要です、これは“墓”なのです。エデンの園とは別の園にある“園の墓”。カルバリーの下、キリストが葬られた所。

復活の日曜日、そこで何が起こりましたか？ 墓に向かって走って行った弟子たちが見たのは二人の御使いでしたね。一人は遺体が置かれていた場所の足もとの位置に、もう一人は頭の所に。そして、石台の上に置かれていた遺体から流れ出た子羊イエスの血は、ひどく打たれ痛めつけられたその体を覆っていた布にしみ込んでいました。

贖いの蓋、契約の箱、二人の御使い、シャカイナ・グローリー。そして石が除けられて、つまり至聖所、そこで宣言されたのは「道は開かれた！」ヘブル書に書いてあるように、「垂れ幕は裂かれ、今や、神の臨在の中に入る道は開かれた」ということです。

創世記 3 章のエデンの園では人をいのちの木から遠ざけましたが、これは予告で、幕屋だけでなく、園の墓の中で、キリストが復活の日曜日に甦ったことで成就しました。

それは、私がいちのちの木から遠ざけられるのではなく、食事に招かれて神の臨在に入るとのこと。そうすることで、

何と、呪いを超える力、呪いを破棄する力を体験していく。

まだ、そうです、まだ、状況は呪われています。こんなガラガラ声で咳は止まらず、額には汗。女性は出産の痛みや苦しみ、その他さまざま味わう。

しかし、私たちは変えられています。

救い主が「子羊の婚宴で食事をしよう。」と言われるのを聞く時、私たちはいのちの木の実を自由に食べ、味わうことになるのです。

それが、私たちが期待し、楽しみに待っている所、天国です。

私たちは神に属していますが、世全体は悪い者の支配下にあることを、私たちは知っています。また、神の御子が来て、真実な方を知る理解力を私たちに与えてくださったことも、知っています。

私たちは真実な方のうちに、その御子イエス・キリストのうちにいるのです。

この方こそ、まことの神、永遠のいのちです。(Iヨハネ 5:19 - 20 新改訳 2017)